

共に支える～あふれるふれあい支え合い～

8月26日(土)の10時から11時30分まで、85名(お客さま41名、ミュージックパレット14名、スタッフ30名)の参加者で、楽しいひとときを過ごしました。



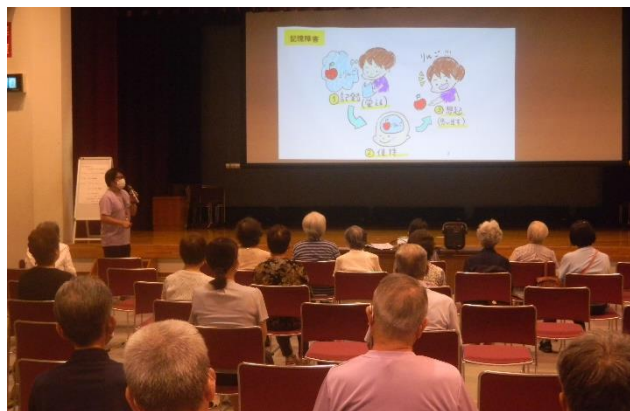
ミュージックパレットのベル演奏は、とても素晴らしく、ベルの心地よい響きに聴き入り、14名の演奏者の姿に見入ってしまいました。これほど観衆の耳と眼をひきつける演奏に仕上げるには、毎日の練習内容や練習量は・・・と、考えていました。また、MCの方の話の中に、この活動を始めた頃に周囲の人から「障害者を舞台にあげて・・・」と心ない言葉をぶつけられた経験が紹介されました。残念ながら少し前までは、そのような言葉を発する人はいたと思います。今は、障害に対する偏見や差別は以前ほどではなくなっていると感じていますが、今回のような交流の場を通して、相互理解をさらに深めていきたいと思いました。

前半は、楠地区民生委員・児童委員協議会の会長からの挨拶のあと、「ミュージックパレットのベル演奏」を視聴し、「“ゆりかもめ”による認知症講座」で学びました。



“ゆりかもめ”による認知症講座では、まず、「後出しじゃんけん」をしながら、「後出しで勝つこと」は簡単に出来て「安心」だけれど、「後出しで負けること」は慣れていないので簡単には出来ず「焦り・不安」になる心境を体感しました。

記憶障害や身体の動きなど、これまで出来ていたことが出来なくなった人の気持ちに寄り添うことの大切さをはじめとして、認知症に関する理解を深めさせていただきました。



後半は、「ボッチャ」、「フロッカー」、「やさしい手話体験」、「ゆりかもめなんでも相談コーナー」で、参加していただいた方の興味とペースに応じて楽しんでいただきました。



ボッチャは、年齢、性別、障がいの有る・無しに関わらず全ての人と共に競い合えるスポーツとして考案され、パラリンピックの正式種目です。

以前、楠地区民生委員・児童委員の4人でチームをつくって市の大会に出たとき、小学生のチームに負けた経験があります。だれでも対等に競い合える競技だと思い知らされました。

この日の会場でも、皆さんが楽しみながらやっていることがよくわかる明るい雰囲気でした。



フロッカーは、体育館などのフロアで行うカーリングで、木製ストーンを使用し、目標ストーンにどれだけ近づけるかを競うゲームです。

ボッチャとフロッカーは、道具が全く違いますが、どちらも目標（ボッチャは白いボール、フロッカーは緑色のストーン）に近いところに相手よりも多く

ボール（ストーン）を集めたチームの勝ちになります。とくに、フロッカーのストーンは重量があるので、相手のストーンや目標のストーンに当たったときの衝撃が強く、最後の一投で大逆転となることもあり、一投ごとに歓声が上がっていました。



手話体験コーナーでは、静かに和気あいあいと手話の練習が進んでいました。手話ですから音声は聞こえてきません。手話を知らない者が少し離れたところから様子を見ているだけでは、内容はまったく理解できません。しかし、逆に言えば、手話で会話している人たちから遠く離れていても、様子が見えれば手話ができる人はその内容がわかるし、会話に参加できるのだと改めて思いました。

相談コーナーでは、参加者数人と相談者が車座で手をたたきながらゲームをしているような場面がありました。深刻な相談ではなく、楽しく話したり遊んだりしながら、学びを得ているのだと推測しました。入り口には、“ガチャガチャ”が設置されていて、景品がもらえるようでした。いろいろと楽しめる工夫をしていただいていたいました。

